

交流集会「Society 5.0の時代にむけた放射線看護教育  
—— e-learning から VR までいつでもどこでも  
学べる環境を——」

Education on radiological nursing in Society 5.0:  
Enable to learn anywhere at any time through e-learning to VR

漆坂 真弓 富澤 登志子 井瀧 千恵子

會津 桂子 北島 麻衣子 細川 洋一郎

工藤 幸清 寺島 真悟 小山内 暢

辻口 貴清 野戸 結花

Mayumi URUSHIZAKA Toshiko TOMISAWA Chieko ITAKI

Keiko AIZU Maiko KITAJIMA Youichiro HOSOKAWA

Kohsei KUDO Shingo TERASHIMA Minoru OSANAI

Takakiyo TSUJIGUCHI Yuka NOTO

弘前大学大学院保健学研究科

Department of Nursing Science, Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

ICT (Information and Communication Technology、情報通信技術) の発展により、距離や時間を克服した教育や研修の機会が拡大している。奇しくも 2020 年、COVID-19 が世界を席卷したことを受け、教育・研修の場では、急遽そのあり方の変革が求められ、対応に追われることになった。いつでもどこでも学べるオンライン研修や e-learning、そしてリアルな体験ができるバーチャルリアリティなど多様な学習環境の構築が期待される。一方、ICT を活用した教育体制の整備が進められるなか、教育教材の作成や作成上の留意点、実際の活用法など、どこからどのように取り組んでよいものか、苦慮されている方も多いのではないだろうか。本交流集会では、ICT を活用した教育教材の作成方法と留意点、また具体的な活用について情報提供を行った。

まずは、「デジタル教材作成の注意事項—著作権と情報セキュリティ—」というテーマで、教材作成にあたっての著作権の権利制限、著作権法の改正などについて、情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を保持するための対応策について情報提供を行った。特に、公衆送信利用に伴う著作権については、ICT を活用した教育ニーズの拡大に伴い 2020 年度に限った特例があるなど、今後もその考え方と活用に関する最新の情報を得る必要性について説明した。放射線という、日常なじみの薄いものをわかりやすく伝える際に、視覚に訴えイラストや動画を利用する場合がある。また、知識のエビデンスを提示する際には、論文や書籍から引用したり、

既存の資料をそのまま使用することもある。いずれにせよ、著作権や情報セキュリティを念頭において教材を作成する必要性についてご理解いただけたと考える。

次いで、「ICTを活用した教材作成とこれからの教育」というテーマで、ICTを活用したオンライン授業やオンデマンド型授業の特徴や具体的な活用例、教材開発のポイント、教材開発の手順および教材開発の具体例について情報提供を行った。オンライン授業では、学習者の反応がとらえにくい、学習者が自身の生活空間の中で受講するため緊張感が保てないという難しさがある。学習者の学びの質を担保するための工夫として、活用するシステムに応じたアンケート機能やチャット機能を駆使し、学習者の反応を拾い上げ双方向のやり取りを重視した授業展開の事例について解説した。オンデマンド型授業では、繰り返し学べる環境の強みを活かし、知識の獲得を目指した教材作成を行う、学習者の立場に立った教材作成を心がけるなど、学習環境の特徴を最大限活かした具体的な教材開発の視点を述べた。

いつでもどこでも学べる環境を提供するため、ICTを活用した効果的な教育を行うための取り組みを紹介したが、本交流集会での情報提供が、ICTを活用した教材作成の契機となることを切望する。